

## 1 情勢報告

## クジャクアスター現地検討会・目慣らし会の開催



現地検討会の様子



出前授業用の写真

2月7日に、JA土佐くろしおクジャクアスター研究会の現地検討会を現地ほ場2か所で開催しました。

検討会では、初めに営農指導員からほ場の栽培管理の説明があり、農業振興センターからは、夏に向けての土壌消毒の実施や、収穫後の追肥量の再確認を呼びかけました。現地ほ場の生産者からも実際の追肥量ややり方について報告してもらい、他の生産者からは「実際の数字で示されると現状にずれがあることがわかった」「こんなに肥料が必要とは考えていなかった」などの声が聞こえました。

同時開催の目慣らし会は出荷場で行い、切り前について意見交換や、この時期問題となる灰色かび病への対策について注意喚起を行いました。また、2月20日に大田市場で行われる市場関係者向け出前授業に向けた栽培情報の聞き取りや写真撮影も行うなど活発な会となりました。

今後も振興センターは、JAと協力し生産者の栽培技術向上のための支援を行っていきます。

## JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会



2月8日に、JA土佐くろしお販売課2階会議室において、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会の第2回委員会を開催しました。この協議会は、JA土佐くろしお、振興センターの他、管内の市町で構成されており、連携して管内の農業振興を図ることを目的としています。

まず、地域振興、品目別、販売戦略の3プロジェクトチームから平成24年度の活動と次年度への取り組みの報告を行い、質疑応答がされました。

次に、地域振興チームから後継者対策について、各市町から情勢について、JAからは次年度の省エネ等の予算について等の情報共有が行われました。

今後とも関係機関が連携して産地振興が円滑に進むように取り組んでいきます。

## JA津野山ミョウガ部会現地検討会の開催



2月18日に、JA津野山ミョウガ部会の現地検討会を津野町北川で開催しました。当日は、20名の生産者と2名の営農アドバイザーの参加がありました。

今回の検討会では、振興センターが配布資料をもとに植物栽培の基礎である「光合成」について話をし、その重要性について部会全体で共有しました。生産者も栽培を行う中で「光合成」の重要性は感じていたようで、話を聞きながらうなづく方も多くいました。その後は、土耕栽培と養液栽培に分かれて現地ほ場に入り、定植期からの栽培管理について意見交換が行われ、活発な現地検討会となりました。

振興センターでは、今後もJAと協力し、生産者の収量向上と経営安定のための支援を行っていきます。

## 1 情勢報告

### 普及推進協議会の開催



普及推進協議会

2月15日、第2回農業改良普及推進協議会を開催し、農家8名を含む14名の委員と意見交換を行いました。

会では、24年度の普及課題から重点計画の3課題と個別計画の2課題を取り上げ普及活動実績を報告しました。また、「直販における安全・安心の取り組み」と「鳥獣害対策」、「ショウガのMB代替技術の実証」の3つをテーマに情報交換を行いました。

委員からは、「ヒートポンプの勉強会はできないだろうか」「Iターン就農に近隣農家や部会が協力して支援することも必要ではないか」「直販の安全・安心ネットワークの取り組みのスケジュールはどうなっているか」など、普及活動への意見や質問がありました。

振興センターは推進協議会を踏まえ、今後の普及活動を行っていきます。

JA土佐くろしおミョウガ部会現地検討会が開催されています。



ミョウガ部会では、養液栽培の現地検討会を4地区で、土耕の現地検討会を1グループで開催しています。現在までは、1月28日に土耕グループ、1月30日に新荘川筋地区、2月12日に浦ノ内地区、2月19日に多ノ郷・神田地区で開催し、のべ92名の参加を得ました。

テーマは「作物の栄養源はやっぱり光合成」ということで行っており、ハウス内の環境制御法や、給液・かん水管理について、具体的な調査データをもとに参加者と検討しました。

これまでの管理方法、考え方と大きく違う内容もあり、困惑している参加者も少なくありませんでしたが、現地検討会后、具体的なデータをもとに管理方法を変更し、少しでも光合成促進を図ろうとしている農家も増えてきています。

この内容は、今後も継続テーマとし、今後は、より具体的な管理方法を示し、基本管理技術の見直しを図っていきたいと考えています。